

ブックちゃんの

2021年6月1日発行

ふじのみや探検

まん の はらしんでん
第34号 万野原新田のひみつ



発行：富士宮市立中央図書館 〒418-0067 静岡県富士宮市宮町13-1 TEL:0544-26-5062 FAX:0544-26-1284

『萬野区誌』より



富士山に抱かれた万野

しがいち
富士宮市の市街地の
北側に、住宅地が広がる
まん の はらしんでん
万野原新田があります。
「新田」と地名がついて
いますが、水田はありま
せん。万野原新田のひみ
つを探ってみましょう。



©富士宮市さくやちゃん

ひみつ1

しんでん
「新田」と地名がついているのに、なぜ、水田がないの？

「新田」とは、おもに江戸時代、新たに田や畑などとするために開墾（山野を切り開いて耕すこと）してできた農地のことです。皆さんは、水田だけでなく畑でも米（稲）が収穫できることを知っていますか。「陸稲」といいます。江戸時代は、米中心の経済だったので、米の収穫量を増やすために、全国でさかんに開墾が行われました。昔、万野原新田のあたりは、富士山の溶岩の上に降り積もった火山灰におおわれ、雨水も地面の下にしみ込んでしまい、まったく水のない荒れた土地が広がっていました。万野原新田の歩みは、水をどのようにして手に入れるかという、水との闘いの歴史でした。

戦国時代の終わりから江戸時代にかけて検地（※）が行われ、新田を開く計画が立てられました。そのころの万野原は荒れ地でしたが、「万野原新田」となったため、大宮町に年貢がかけられ、江戸時代の終わりまで大きな負担となりました。（江戸時代、万野原新田は、大宮町の一部とされていました。）

※ 検地とは？ ※

りょうしゅ のうみん ねんぐ
領主が農民から年貢を取るため、土地を測量して検地帳に田畑の面積や石高（収穫量）などを記しました。

ひみつ2 水をどのようにして手に入れようとしたの？

万野原新田の開発 年表

時代・年	できごと
鎌倉時代	
1274年	大宮の郷士、由比五郎が開墾をはじめ るが、やがて失敗する
戦国時代	
1554年	朝比奈弥惣左衛門が開墾をはじめ るが中止する
1582年	井出甚之助正次（志摩守）が北山用 水を開く
1589年	伊奈忠次（備前守）が検地を行い、500 町歩の新田計画を立てる 北山用水を利用して水を引こうとする
江戸時代	
1609年	備前守が再び開墾を行う
1610年	琴平神社が建立される 万野用水を開いたが、水は流れてこな かった 備前守が急死する。
1810年	葦山代官所（江川太郎左衛門）が再び 万野原新田の開墾に取り組む。 このころ、万野用水に水は流れていた
1837年	ききんのため、北山・山宮・万野・宮 原等の農民が土一揆を起こす
1848年	佐野与市（角田桜岳）が開墾にとりか かり、人々を動かして用水を修理する
明治時代	
1870年	江戸から士族が万野原新田に移り住む
1888年	水争いが起こる
1909年	三番堀が完成する
昭和時代	
1961年	万野新田で赤痢が発生する
1962年	上水道が完成する

って用水を引き入れたりして水不足に備えました。また、万野原新田の南部では深い井戸を掘り、地中からわずかにしみ出る水を利用しました。万野原新田には、今でも庭に井戸や貯水槽が残されているお宅があります。**万野原新田がようやく水不足から解放されたのは、昭和37年（1962）、上水道が完成してからでした。**上水道が引かれたことで、万野用水に頼らずに生活用水が確保できるようになったのです。

水のない荒地を開発するため、多くの人たちが挑戦し、失敗をくり返してきました。人々が生活するためには、水が必要です。万野原新田では、用水を引くことや、雨水をためる、深い井戸を掘るという方法で水を手に入れようとしてきました。**北山用水を延長して水を引いたのが万野用水です。**しかし、万野用水は水田づくりに利用されることはなく、飲み水や生活用水として使われました。

万野用水を開いたのは伊奈忠次（備前守）といわれていますが、開発は失敗しています。万野用水がいつごろ流れるようになったのかははっきりしませんが、江戸時代の終わりごろ、大宮町の三右衛門らが葦山代官所に用水路の修理を願い出た書類から**用水に水が流れていた**ことが分かります。代官所ではこの願いを受け、用水を整備します。北山用水は芝川から水を取り入れていましたが、その南に別の取入口を設けて万野用水の流れる量を増やしました。

こうして万野用水に水が流れるようになりましたが、芝川から取り入れる水の量が増えれば、上流の村々で水田などに水を入れる量は増え、万野原新田にはわずかな水しか流れてこず、しばしば水争いが起こるようになりました。この解決と万野原新田の開発に力をつくしたのが、大宮町の佐野与市（角田桜岳）です。桜岳は、万野原新田の万農庵に移り住んで開墾を進め、その一方で水争いをおさめるための話し合いをしたり、重い年貢を減らしてもらうよう代官所にお願したりして、万野原新田の開発につとめました。

万野用水が引かれたとはいえ、万野原新田では、長いこと水不足に悩まされました。このため、**雨水を貯水槽（水をためるタンク）にためたり、庭に池をつく**



『萬野区誌』より



万野原新田には、「一番堀、二番堀、三番堀」と呼ばれている水路が、ほぼ等しい間隔で東西に横切り、弓沢川にそそ注いでいます。現在では万野用水とながっていますが、もともとは、排水路として掘られたものです。

万野原新田では、昔から大雨が降ると富士山から流れ出る雨水が農地にあふれ、土砂とともに町場の^{まちば}大宮町にも流れ込んで、たびたび大きな被害をもたらしました。そこで、農地と町場を守るため、天保6年（1835）ごろ、洪水の流れを調べた角田桜岳の提案で、^{こしんぼり}小新堀（一番堀）、^{おおしんぼり}大新堀（二番堀）の二本がつくられました。しかし、1907（明治40）年、大洪水がおこり、二つの堀だけでは防ぎきれませんでした。そこで、1910（明治43）年、もう一本の堀をつくりました。これが新堀（三番堀）です。

堀ができたとはいえ、たびたびの洪水で堀は埋まってしまい、何度も土砂を取りのぞかなければなりません。堀の砂さらいは^{じゅうろうどう}重労働で、万野原

新田の農民はもとより、大宮町の人たちの手で行われたこともありました。

現在では「小新堀、大新堀、新堀」の呼び名ではなく、「一番堀、二番堀、三番堀」と呼ばれていますが、排水路としての役割は今でも引き継がれ、^{すいがい}水害から^{しがいち}市街地を守り、^{めやす}万野原新田の地名の目安となっています。



二番堀

万野用水の石樋



万野用水と北山用水の合流点と分水点には、水の量を量る石樋が設けられていました。これは、合流点である内野の横手沢にあったものを琴平神社に移したものです。

ひみつ4

「長屋」という地名がついた理由は？

現在、万野地区は1～4区、希望区の5地区に分けられています。以前は、「上万野」「下万野」「長屋」という分け方が一般的でした。「長屋」とは、万野原新田の開墾のために入植（農業をするために移り住むこと）した士族（もと武士）の屋敷があった所をいい、その中心になる通りは「長屋通り」と呼ばれています。現在の犬富士中学校の東側道路のあたりです。

江戸幕府が滅ぶと徳川家の家臣だった士族約250戸が万野原新田に入植し、開墾を始めました。角田桜岳は、士族の入植にも力をつくしています。当時の万野原新田には、40戸ほどの農家が、琴平神社の東側から南にかけて万野用水を生活用水として細々と農業をしていました。桜岳は、農民たちが住む土地と離れた万野原新田の西に士族たちが入植するよう計画し、万野原新田で初めて農民たちの力で士族専用の深い井戸（お長谷の井戸）を掘りました。同時に生活用水が常に万野原新田の西に流れるように琴平神社の東側の万野用水に徳川分水口を開きました。

士族の住宅は屋敷地100坪（約330㎡）、建坪10坪2合5勺（約34㎡）の草ぶきの建物で、「長屋」と呼ばれ、これが地名になりました。士族には土地が与えられて開墾を進めましたが、慣れない農作業に耐えられず、東京などに出て再び戻らない人たちが多くいました。万野原新田にとどまった士族は明治19年（1886）には59戸、大正8年（1919）ごろには12～13戸になってしまいました。現在では、数戸の子孫の人たちが万野原新田や富士宮市周辺に住んでいます。

まめ知識

琴平神社



琴平神社は、江戸時代の初めごろ、伊奈備前守が万野原を開墾しようとしたときに讃岐（香川県）の金比羅さんを勧請（神様を招くこと）したのが始まりといわれていますが、開墾が失敗してしまうと荒れはててしまいました。江戸時代の終わりごろに再び開墾が始まると、建てなおされました。神社は、水の神・農業の神として信仰され、水不足に悩む万野原新田の住人にとって大事な神社でした。神社の参道の両側に地面が低くなっている場所がありますが、水不足に備えて水をたくわえておく「ため池」だったといわれています。神社の東には、万野用水の徳川分水口が設けられ、長屋と下万野へと分かれて流れています。

『第34号・万野原新田のひみつ』は、次の資料を参考にして作りました。

- 1 『萬野区誌』 萬野区誌編纂委員会 2001
- 2 『富士宮市史(上巻)』 富士宮市史編纂委員会 1971
- 3 『ふるさと読本「大富士」』 大富士小学校 1988
- 4 『学校区を知る本 大富士の里』 大富士小学校 1989
- 5 『増補改訂 富士宮歴史散歩』 遠藤秀男/緑星社 1980
- 6 『歴史を旅した石たち』 沢田正彦/エース出版 2014
- 7 『歩く博物館ガイドブック 改訂版』 富士宮市教育委員会 2020
- 8 『ふじのみや-小学校社会科地域学習資料-』 富士宮市教育委員会 2018
- 9 『富士宮-中学校社会科地域学習資料-』 富士宮市教育委員会 2021

「ブックちゃんのふじのみや探検」
第17号「用水のひみつ」も見てね。



©富士宮市さくやちゃん